

## 社内の風通し良くし 時代のニーズに対応

株式会社 ハナガタ  
代表取締役社長

花 方 淳 氏



リーマン・ショックに東日本大震災が加わりましたが、現状は。

設備系なので景気に随分左右され、業界全体としては落ち込んでいます。当社の売上げの約80%は国内ですが、従来の包装形態の見直しによる新しい需要開拓や、中国などへの海外展開を進めています。

部品製造から一貫して内製化されています。そのメリットは。

それが当社の特徴といえます。メッキなどを除き外注はしていません。元々、花方プレス工業所という板金加工の会社が出発点で、製造設備があったことからできたことです。納期の管理がしやすいことと、部品を知り尽くしたノウハウを持った作業者が、図面が無くても試作品をつくることができます。開発のスピード、コストの面でメリットがあり、お客様のニーズに応えることができます。

これまでL型自動包装機などを次々と開発され、昨年末には手動スリーブ機を出されました。

新商品は当社で考えたものを提供する場合が多いのですが、お客様やフィルムメーカーとの共同開発も少なくありません。また、小ロット対応として、20~30万円くらいの手動包装機を希望されるお客様も増えています。この分野は中国製が入ってきていますが、当社も参入しています。

省エネや環境対応への取り組みが求められています。

コストダウンの目的で省エネ機械を以前から製造していました。7割を占めるシュリンク包装機は、熱源の電気使用量をどう減らすかが一番の課題です。ヒーター効率を上げる装置や省エネモードボタンなど断熱方法の工夫などにより、

最新型機械の消費電力は従来比30%ダウンを実現しています。環境面を考慮し、塗装はシンナーや有機溶剤を使ったものから、できる限り粉体塗装に変えています。また、フィルムメーカーと植物由来の原料を混ぜた再生フィルム用の包装機械も開発し、昨年10月に開催された東京パックに出品しました。

—中国、東南ア市場開拓—  
売上げの2割となる輸出は従来の米国に加え、中国が増えているようです。

今まで米国中心だったのが、昨年あたりから中国への出荷額が米国を逆転しました。上海にショールームを開設して4年目。中国は現在、太陽電池がらみの仕事を中心ですが、化粧品や健康食品分野の包装が伸びると予想し、まず5月に上海での化粧品展にブースを設けPRを開始しました。中国や東南アジアは経済成長と共に人件費が高くなれば、今は人が行っている包装も機械化される大きな波がくると考えています。

社長は営業出身で海外駐在もデュッセルドルフとニューヨークに延べ3年半経験されています。

ドイツもアメリカも、当社はニチメン（現・双日）を通じて販売していたので、双方の提案が合致した部分があって赴任しました。

ドイツ時代は商社の社員としての仕事が多く、商売の進め方をはじめ海外での付き合い方、語学を含めいろいろ勉強になりました。

技術革新をしていく上で人材の育成策は。

板金、溶接、切削、塗装、仕上げと、グループごとにチームをつくり、若い人に技術を継承するように指導しています。オーダーメイドのため、部品や組み立て、アフターサービスなど、長い年月の中で独自に築いてきた固有技術があり、なかなかマニュアル化できない問題点がありました。そのため最近ではグループの枠をとり、多能工化を図るとともに、若手と年配経験者をペアにして一緒に仕事を繰り返す徒弟制度の導入も進めています。

社長になられて約2年ですが、ご自身の経営方針は。

現会長が社長のときは技術主体に工場を管理し、営業は商社に任せていたこともあってトップ指示が多く、なかなか下からの意見が出にくい雰囲気があったと思います。しかし、若い社員が増え、彼らの発想がこれからは必要になります。今、医療介護分野に使える包装機械を市場調査中です。いつまでもシュリンク包装、L型包装の枠にとどまっていたはだめだと思っています。

—若手の会立ち上げる—  
社内の風通しがよくなったようです。

昨秋から20代、30代の“若手の会”を立ち上げました。社内は営業、設計、部品も工程ごとに分かれているので、結構セクショナリズムです。それを打破したいと、自由参加で月1回ほど、アフターファイブに10数人が集まって情報交換しています。私も3カ月に1回加わります。

ホームページには『日本を包む、花でありたい。』と素晴らしいキャッチフレーズが掲げられていますが、社長自身の座右の銘は。

『不易流行』という言葉が気に入っています。製品を包んでどこかに持っていくという包装のコンセプトは昔から全く変わりません。包装の材料が竹の葉から新聞紙、プラスチック、フィルムと変化してきて、これからは自然由来の原料を使ったフィルムも出てくるでしょう。包装の目的も時代とともに変わってきており、バブルの頃は包装自体に商品価値があり、過剰包装になることもありましたが、最近では逆に簡易包装が叫ばれています。私自身、「不易流行」を念頭に、柔軟に時代のニーズに対応しながら進化していこうと努めています。

### 会社概要

株式会社 ハナガタ

創 業：1948年4月  
所 在 地：富山市横内417  
資 本 金：1,800万円  
事業内容：包装機械製造・販売、レンタル  
従業員数：60人(2011年6月末現在)  
売上高：7億5,000万円(2010年3月期)  
U R L：http://hanagata.co.jp/



「日本を包む、花でありたい」と、製品の前で